

リリース・ノート jConnect™ for JDBC™ バージョン 6.05

ドキュメント ID : DC74872-01-0605-01

改訂 : 2005 年 9 月

| トピック名 | ページ |
|--|-----|
| 1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス | 2 |
| 2. 製品の概要 | 2 |
| 3. 特別なインストールの指示 | 3 |
| 3.1 jConnect for JDBC のバージョンの確認 | 3 |
| 3.2 jConnect for JDBC の古いバージョンの削除 | 4 |
| 4. 特別なアップグレードの指示 | 5 |
| 4.1 移行 | 5 |
| 4.2 バージョン設定 | 5 |
| 4.3 JDK 1.4.2 | 5 |
| 5. このバージョンで変更された機能 | 6 |
| 6. 既知の問題 | 6 |
| 6.1 JDBC 2.0 および JDBC3.0 の関数が実装されていない | 6 |
| 6.2 JDBC クライアントから実行されるストアド・プロシージャ | 7 |
| 6.3 setBinaryStream の IOException | 7 |
| 6.4 allTablesAreSelectable メソッドからの戻り値の誤り | 7 |
| 6.5 数値エラーが警告として返される | 8 |
| 7. マニュアル情報と変更点 | 8 |
| 8. テクニカル・サポート | 8 |
| 9. その他の情報 | 8 |
| 9.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報 | 9 |
| 9.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス | 10 |
| 10. アクセシビリティ機能 | 10 |

Copyright 1997-2006 by Sybase, Inc. All rights reserved. Sybase, Sybase のロゴ, Data Workbench, InfoMaker, PowerBuilder, Powersoft, SQL Advantage, SQL Debug, Transact-SQL, AccelaTrade, Adaptive Server, Adaptive Server Anywhere, Adaptive Server Enterprise, Adaptive Server Enterprise Monitor, Adaptive Server IQ, Anywhere Studio, Backup Server, BizTracker, ClearConnect, Client-Library, DB-Library, DirectConnect, Embedded SQL, Enterprise Application Studio, Enterprise Client/Server, EnterpriseConnect, Financial Fusion, Financial Fusion Server, Industry Warehouse Studio, InformationConnect, Jaguar CTS, jConnect, MainframeConnect, Net-Gateway, Net-Library, ObjectConnect, OmniConnect, OmniSQL Access Module, Open Client, Open ClientConnect, Open Client/Server, Open Gateway, Open Server, Open ServerConnect, PowerDesigner, PowerJ, Replication Agent, Replication Driver, Replication Server, Replication Server Manager, Secure SQL Server, SQL Remote, SQL Server, SQL Server Manager, SQL Toolset, Sybase Central, Sybase SQL Desktop, Sybase SQL Workgroup, System 10, System 11, TradeForce, Watcom SQL, Web.SQL, WorkGroup SQL Server, XA-Library, XA-Server, XP Server は、Sybase, Inc. の商標です。このマニュアルに記載されている上記以外の製品名は、Sybase または各社の商標または登録商標の場合があります。

1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス

このリリース・ノートの最新バージョン(英語版)にはインターネットからアクセスできます。製品の CD がリリースされた後で、製品またはマニュアルに関する重要な情報が追加されているかを確認するには、Sybase Technical Library Product Manuals Web サイトを使用してください。

❖ Technical Library Product Manual Web サイトのリリース・ノートにアクセスする

- 1 Product Manuals (<http://www.sybase.com/support/manuals/>) を開きます。
- 2 リンクに従って、該当する Sybase 製品のページに移動します。
- 3 [Release Bulletins] リンクを選択します。
- 4 [Release Bulletins] リストから、Sybase 製品のバージョンを選択します。
- 5 マニュアルのリストから、使用しているプラットフォームのリリース・ノートへのリンクを選択します。PDF バージョンをダウンロードするか、オンライン・マニュアルを参照することができます。

2. 製品の概要

この製品は、Sybase jConnect™ for JDBC™ バージョン 6.05 です。

jConnect for JDBC は Java JDBC 標準の実装です。jConnect を使用することによって、Java の開発者は多層環境および異機種環境でネイティブ・データベースにアクセスできます。事前にクライアントをインストールしていなくても、シンクライアント Java アプリケーションで使用できるように、jConnect for JDBC をすばやくダウンロードできます。

jConnect for JDBC は、Adaptive Server Enterprise (ASE)、SQL Anywhere、Adaptive Server IQ、Replication Server をはじめとするすべての Sybase 製品ファミリへのハイパフォーマンスなダイレクト・アクセスを実現します。

注意 Sybase では、Adaptive Server と Adaptive Server Enterprise という名前を、Adaptive Server Enterprise のすべてのサポート対象バージョンを指すものとして使用しています。

jConnect for JDBC は次の機能を提供します。

- JDBC 2.x 標準への準拠

- JDBC 3.x 標準への限定的準拠

注意 jConnect 6.05 は、JDBC 3.0 を完全にはサポートしていません。この機能は、今後の EBF リリースで段階的に追加される予定です。サポートされていない機能については、このリリース・ノートの「[JDBC 2.0 および JDBC3.0 の関数が実装されていない](#)」(6 ページ) で説明します。

- ネイティブ・プロトコルのサポート
- クライアントのインストールが不要
- 多層設定

jConnect for JDBC には次の特徴があります。

- 他の JDBC ドライバとの相互運用性
- ハイパフォーマンスなダイレクト・データベース・アクセス
- 異機種データベースおよび既存のデータベースのサポート
- すべての Web サーバおよび Java が実行可能なクライアント間での移植性
- ビジネス上重要なアプリケーションのスケラビリティ
- セキュリティと信頼性

3. 特別なインストールの指示

次の Sybase ダウンロード Web サイトで、jConnect for JDBC の最新バージョンを確認してください。

<http://www.sybase.com/products/middleware/jconnectforjdbc>

3.1 jConnect for JDBC のバージョンの確認

インストールされている既存の jConnect for JDBC の正確なビルド・バージョンを確認するには、`$JDBC_HOME/classes` ディレクトリ (UNIX の場合) または `%JDBC_HOME%\classes` ディレクトリ (Windows の場合) から、次のコマンドを実行してください。

```
java -jar jconn3.jar
```

次のようなバージョン文字列が表示されます。

```
jConnect (TM) for JDBC(TM)/6.05 (Build  
25773/P/EBF12723/JDK14/Fri Aug 5 0:05:43 2005
```

この場合、バージョン番号は 6.05 です。文字列 "EBF" の後に続く 5 桁の数字が jConnect for JDBC の正確なバージョンを示します。この数字は、新しくリリースされた EBF ほど大きくなります。これよりも新しいバージョンの jConnect for JDBC が Sybase ダウンロード Web サイトで公開されている場合は、最新バージョンをダウンロードして使用してください。

3.2 jConnect for JDBC の古いバージョンの削除

jConnect for JDBC 6.05 の最新バージョンをダウンロードした場合は、次の手順を使用して、インストールされている古いバージョンの jConnect for JDBC 6.0 を削除します。

インストール可能イメージを使用する場合は、インストール済みの古いバージョンを削除する必要はありません。ドライバを更新するには、新しい jConnect インストール・バージョンが収録されているインストール・イメージを実行してください。

❖ jConnect for JDBC の古いバージョンを削除する (スタンドアロン jConnect zip ファイルの場合)

- 1 `$SYBASE` ディレクトリの `jConnect-6_0` フォルダを削除します。
- 2 jConnect for JDBC の最新バージョンの `zip` ファイルを `$SYBASE` ディレクトリに解凍します。
- 3 **注意** この手順は、ASE 12.5.3 以降では必要ありません。ASE 12.5.3 よりも前のバージョンの場合にこの手順を実行することをおすすめします。

jConnect for JDBC の最新バージョンに付属する適切なスクリプトを使用して、使用しているデータベースに jConnect for JDBC メタデータを再インストールします。たとえば、Adaptive Server Enterprise バージョン 12.5.x の場合は `sql_server12.5.sql` スクリプトを使用します。手順の詳細については、『jConnect for JDBC インストール・ガイド』を参照してください。

注意 jConnect for JDBC 5.5 から最新バージョンの jConnect for JDBC 6.05 にアップグレードする場合、`jConnect-5_5` ディレクトリを削除する必要はありません。

4. 特別なアップグレードの指示

この項では、jConnect 6.0 より前のバージョンから jConnect for JDBC 6.05 へのアップグレードについて説明します。詳細については、『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』を参照してください。

4.1 移行

jConnect for JDBC 6.05 のドライバ・コードは *jconn3.jar* にあります。アプリケーションの CLASSPATH 環境変数が、この新しいファイル *jConnect-6_0/classes/jconn3.jar* を指している必要があります。jConnect for JDBC 5.x からアップグレードし、既存のアプリケーションで jConnect for JDBC 6.05 ドライバを使用する場合は、アプリケーション・コードの変更も必要になることがあります。

詳細については、『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』の「第 6 章 jConnect アプリケーションへのマイグレート」を参照してください。

4.2 バージョン設定

jConnect for JDBC 6.05 ドライバのデフォルトのバージョン設定では、JCONNECT_VERSION プロパティが "6.05" に設定されています。既存のアプリケーションで *jconn3.jar* を使用すると、望ましくない動作変更が生じることがあります。jConnect for JDBC 6.05 ドライバを使用しながらバージョン 5.x の動作を維持するには、JCONNECT_VERSION プロパティを "5" に設定してください。

注意 jConnect for JDBC 6.05 の JCONNECT_VERSION プロパティを "5" に設定した場合は、jConnect for JDBC または接続先のデータベース・サーバの機能の一部が使用できなくなります。この設定は、デフォルトの JCONNECT_VERSION 設定で問題が発生する場合のみに使用してください。

4.3 JDK 1.4.2

jConnect for JDBC 6.05 を使用するアプリケーションをコンパイルして実行するには、JDK バージョン 1.4.2 以降を使用します。

5. このバージョンで変更された機能

jConnect for JDBC 6.05 での新しい機能の説明は、『新機能 Open Server 15.0 および SDK 15.0』に記載されています。

6. 既知の問題

この項では、jConnect for JDBC の将来のリリースで解決される問題について説明します。

6.1 JDBC 2.0 および JDBC3.0 の関数を実装されていない

次に示す JDBC 2.0 および JDBC 3.0 の関数は実装されていないため、これらの関数を呼び出すと `NotImplementedException` という例外がスローされます。これらの関数のサポートは、将来の ESD リリースで段階的に追加される予定です。

- JDBC 2.0 の場合

```
Connection.getTypeMap();
Connection.setTypeMap(java.util.Map typeMap);
PreparedStatement.setNull(int index, int sqlType, String typeName);
CallableStatement.getObject(int index, java.util.Map typeMap);
CallableStatement.getObject(String parameterName,
java.util.Map typeMap);
ResultSet.getObject(int index, java.util.Map typeMap);
ResultSet.getObject(String columnName,
ResultSet.isLast();
ResultSet.updateBigDecimal(int index, BigDecimal x);
ResultSet.updateBigDecimal(String colName, BigDecimal x);
```

- JDBC 3.0 の場合

```
Connection.createStatement(int resultSetType, int resultSetConcurrency, int
resultSetHoldability);
Connection.getHoldability();
Connection.prepareCall(int resultSetType, int resultSetConcurrency,
int resultSetHoldability);
Connection.prepareStatement(int resultSetType,
int resultSetConcurrency, int resultSetHoldability);
Connection.prepareStatement(String sql, int autoGeneratedKeys);
Connection.prepareStatement(String sql, int [] columnIndexes);
Connection.prepareStatement(String sql, String [] columnNames);
Connection.releaseSavepoint(Savepoint savepoint);
Connection.rollback(Savepoint savepoint);
Connection.setHoldability(int holdability);
Connection.setSavepoint();
Connection.setSavepoint(String name);
DatabaseMetaData.supportsSavePoints();
DatabaseMetaData.supportsMultipleOpenResults();
```

```
DatabaseMetaData.supportsGetGeneratedKeys();
DatabaseMetaData.supportsResultSetHoldability();
DatabaseMetaData.getSuperTypes(String catalog, String schemaPattern, String
typeNamePattern);
DatabaseMetaData.getSuperTables(String catalog, String schemaPattern, String
typeNamePattern);
DatabaseMetaData.getAttributes(String catalog, String schemaPattern, String
typeNamePattern, String attributeNamePattern);
DatabaseMetaData.getResultSetHoldability();
DatabaseMetaData.getSQLStateType();
DatabaseMetaData.getDatabaseMajorVersion();
DatabaseMetaData.getDatabaseMinorVersion();
DatabaseMetaData.getJDBCMajorVersion();
DatabaseMetaData.getJDBCMinorVersion();
DatabaseMetaData.supportsStatementPooling();
ResultSet.getURL(int index);
ResultSet.getURL(String columnName);
SavePoint.getSavePointId();
SavePoint.getSavePointName();
```

6.2 JDBC クライアントから実行されるストアド・プロシージャ

JDBC クライアントから実行されるストアド・プロシージャが出力パラメータを返すものであり、ストアド・プロシージャの中で `Transact_SQL (TSQL)` 関数 `“tsequal”` を呼び出している場合に、結果を判定することができません。この問題を回避するには、`JCONNECT_VERSION` を 5 以下に設定します。

この問題は、CR#396479 に関係しています。

6.3 `setBinaryStream` の `IOException`

準備文の `setBinaryStream` メソッド呼び出しで指定された入力ストリームに `IOException` がある場合は、接続が正しくクリーンアップされず、後続のコマンドがエラーになることがあります。

この問題は、CR #343354 に関係しています。

6.4 `allTablesAreSelectable` メソッドからの戻り値の誤り

`DatabaseMetaData` クラスの `allTablesAreSelectable` メソッドは、Adaptive Server Enterprise に対しては “0”、Adaptive Server Anywhere に対しては “1” を返します。

この問題は、CR #202606 に関係しています。

6.5 数値エラーが警告として返される

ASE 12.0 ~ 12.5 では、数値エラーがデフォルトでは重大度 10 として扱われます。重大度 10 のメッセージは、エラーではなくステータス情報メッセージに分類され、その内容は `SQLWarning` オブジェクトに転送されます。`ExecuteQueryNumeric` サンプル・プログラムでは、このような警告を処理する方法の例を示しています。

7. マニュアル情報と変更点

Kerberos の設定の一般的な情報については、次の URL にあるホワイトペーパーを参照してください。

<http://www.sybase.com/detail?id=1029260>

8. テクニカル・サポート

Sybase ソフトウェアがインストールされているサイトには、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタとの連絡担当の方 (コンタクト・パーソン) を決めてあります。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

9. その他の情報

Sybase Getting Started CD、SyBooks™ CD、Sybase Product Manuals Web サイトを利用すると、製品について詳しく知ることができます。

- Getting Started CD には、PDF 形式のリリース・ノートとインストール・ガイド、SyBooks CD に含まれていないその他のマニュアルや更新情報が収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Getting Started CD に収録されているマニュアルを参照または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です (CD 内のリンクを使用して Adobe の Web サイトから無料でダウンロードできます)。
- SyBooks CD には製品マニュアルが収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Eclipse ベースの SyBooks ブラウザを使用すれば、使いやすい HTML 形式のマニュアルにアクセスできます。

一部のマニュアルは PDF 形式で提供されています。これらのマニュアルは SyBooks CD の PDF ディレクトリに収録されています。PDF ファイルを開いたり印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。

SyBooks をインストールして起動するまでの手順については、Getting Started CD の『SyBooks インストール・ガイド』、または SyBooks CD の `README.txt` ファイルを参照してください。

- Sybase Product Manuals Web サイトは、SyBooks CD のオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使ってアクセスできます。また、製品マニュアルのほか、EBFs/Updates、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、ニュース・グループ、Sybase Developer Network へのリンクもあります。

Technical Library Product Manuals Web サイトにアクセスするには、Product Manuals (<http://www.sybase.com/support/manuals/>) にアクセスしてください。

9.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報

Sybase Web サイトの技術的な資料は頻繁に更新されます。

❖ 製品動作確認の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Technical Documents を指定します。
(<http://www.sybase.com/support/techdocs/>)
- 2 左側のナビゲーション・バーから [Products] を選択します。
- 3 製品リストから製品名を選択し、[Go] をクリックします。
- 4 [Certification Report] フィルタを選択し、時間枠を指定して [Go] をクリックします。
- 5 [Certification Report] のタイトルをクリックして、レポートを表示します。

❖ コンポーネント認定の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Availability and Certification Reports
(<http://certification.sybase.com/>) を指定します。
- 2 [Search By Base Product] で製品ファミリとベース製品を選択するか、[Search by Platform] でプラットフォームとベース製品を選択します。
- 3 [Search] をクリックして、入手状況と認定レポートを表示します。

❖ Sybase Web サイト (サポート・ページを含む) の自分専用のビューを作成する

MySybase プロファイルを設定します。MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用カスタマイズできます。

- 1 Web ブラウザで Technical Documents を指定します。
(<http://www.sybase.com/support/techdocs/>)
- 2 [MySybase] をクリックし、MySybase プロファイルを作成します。

9.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス

❖ EBF とソフトウェア・メンテナンスの最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Sybase Support Page (<http://www.sybase.com/support>) を指定します。
- 2 [EBFs/Maintenance] を選択します。MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 製品を選択します。
- 4 時間枠を指定して [Go] をクリックします。EBF/Maintenance リリースの一覧が表示されます。

鍵のアイコンは、「Technical Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・コンタクトから有効な情報を得ている場合は、[Edit Roles] をクリックして、「Technical Support Contact」役割を MySybase プロファイルに追加します。

- 5 EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。

10. アクセシビリティ機能

このマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。この HTML 版マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、その内容を理解できるよう配慮されています。

jConnect for JDBC Version 6.05 と HTML マニュアルは、連邦リハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

この製品のオンライン・ヘルプは HTML でも提供され、スクリーン・リーダーの読み上げで内容を理解できる機能があります。

注意 アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれませんが。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、**Sybase Accessibility** (<http://www.sybase.com/accessibility>) を参照してください。Sybase Accessibility サイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。